

**アップール** 初代会長（故） 中山伊知郎

計画（プランニング）は行政（アドミニストレーション）によって実現される。そして社会は無数の計画と行政によって動いている。しかし、残念なことには、計画と行政との関係は十分に満足すべき状態にはない。計画の源泉には思想と科学があり、行政の基盤には組織と技術があって、それらが相互にからみ合っているからである。計画行政学会は、衆知を集めることによって、計画と行政との間の溝を埋めることを念願して出発した。広くこの問題に関心を持つ人々の参加をうれば幸いである。

#### 【計画行政とは】

計画行政とは、Planning Administrationという言葉からわかるように、政府・公共部門の計画・行政だけではなく、企業等の民間部門の計画・管理や国際的な計画・行政・管理などを広く包括した概念です。したがって、計画行政を対象とする学問は人文科学、社会科学、自然科学のすべての領域に及ぶと同時に、その担い手は学者・研究者、行政担当者、企業人消費者など、多様である必要があります。

#### 【学会の目的】

本会は、計画の作成・実施・評価の各過程や理論方法の研究及び計画の基礎となる自然的・社会的諸条件に関する研究を行うとともに、計画行政の各分野にたずさわる研究者、行政担当者、実務者等による研究成果の発表と相互交流を行うことを通じて、計画行政に関する学問体系の確立に資することを目的としています。

#### 【学会の設立と活動】

本会は、1977年8月に設立された学会です。設立時の会員数は300名余（会長 中山伊知郎）でしたが、その後15年の間に1,300名余（会長 加藤 寛）に増え、北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州支部が設立されました。また、専門部会では、本学会の特色とする総合的分野に関する自主研究を行っています。

#### 【会 員】

本会は、次のような会員で組織されています。

#### 個人会員

- （１）計画行政の理論方法の研究者
- （２）計画行政の基礎となる自然的、社旗適所条件の研究者
- （３）計画行政の策定過程又は実施過程の研究者
- （４）計画行政の策定過程又は実施過程にたずさわる行政担当者又は実施者

#### 学生会員

推薦教官の承認を得た、大学の学生および大学院生

#### 機関会員

上記（１）から（４）までに関係のある機関又は団体の役職

#### 特別会員

本学会の趣旨に賛同し、これを支援する機関又は団体

## 【入会手続】

会員2名の推薦を受けて申し込んで下さい。学生会員を希望される方は申込書が異なりますので、学会事務局までご連絡下さい。

## 【会費】

会員の会費は次のとおりです。

個人会員	10,000円
学生会員	4,000円
機関会員	25,000円
特別会員（一口につき）	100,000円

## 【会員の特典】

会員は、本会の刊行物の配布を受け、本会の実施する各種事業に参加できます。また、会員は希望にもとづき必ずいずれかの地方支部に所属していただくこととし、専門部会別の部会等の設置も別途考慮することといたします。

## 【活動状況】

本会は以下のような活動を行っています。

### （1）国際シンポジウム

#### 創立10周年記念大会

期間	昭和62年9月5～6日
テーマ	国際社会に於ける国家と企業
会場	東京（プレスセンター）

#### 世界計画会議

期間	平成9年9月16～20日
テーマ	リスクアセスメントとリスクマネジメント - 不確実な未来への対応 -
会場	大垣市（スイトピア、ソフトピアジャパンセンター）

### （2）全国大会（毎年1回開催）

各年の共通テーマ及び会場は以下のとおり

第1回	昭和53年11月	プランニングとアドミニストレーション	（東京）
第2回	昭和54年11月	計画行政における中央と地方	（名古屋）
第3回	昭和55年11月	計画行政における地域性	（福岡）
第4回	昭和56年10月	グル・ポイントレストと計画行政	（東京）
第5回	昭和57年10月	民間活力と計画行政	（大阪）
第6回	昭和58年10月	地域活力と計画行政	（広島）
第7回	昭和59年12月	21世紀に向けて	（筑波）
第8回	昭和60年11月	次世代へ向けて	（仙台）
第9回	昭和61年9月	世界へ向けて	（札幌）
第10回	昭和62年9月	国際社会に於ける国家と企業	（東京）
第11回	昭和63年10月	自治体と企業	（松山）
第12回	平成元年11月	中央と地方における公と私	（津）
第13回	平成2年12月	世界的構造調整の中の日本	（横浜）

第 14 回	平成 3 年 11 月	地域おこしの理念とその担い手	(熊本)
第 15 回	平成 4 年 10 月	インター・ナショナルな時代における国家の役割と地域の戦略	(札幌)
第 16 回	平成 5 年 9 月	持続的発展を支える意識・政策・技術	(東京)
第 17 回	平成 6 年 10 月	世界に開かれたベイエリア圏の環境・文化・都市機能	(大阪)
第 18 回	平成 7 年 9 月	創造と持続的発展のための資源政策	(石巻)
第 19 回	平成 8 年 10 月	グローバル・リゼーションとロカレ・イゾン	(東京)
第 20 回	平成 9 年 9 月	グローバル・ネットワーク社会と計画行政	(岐阜)
第 21 回	平成 10 年 9 月	ネットワーク社会の計画行政	(北九州)
第 22 回	平成 11 年 9 月	21 世紀の長期シナリオと計画行政	(東京)
第 23 回	平成 12 年 9 月	21 世紀の地域システムと計画行政	(広島)
第 24 回	平成 13 年 9 月	21 世紀の公の役割と計画行政	(北海道)
第 25 回	平成 14 年 9 月	日本型パートナーシップの確立と新しい計画行政	(つくば)
第 26 回	平成 15 年 9 月	多様なパートナーシップと地域社会に根ざした計画行政	(仙台)
第 27 回	平成 16 年 9 月	計画行政の新展開 - アジアに拓くパートナーシップ	(藤沢)

### (3) 学会賞制度

日本計画行政学会学会賞として、次の3つのものを設けています。

#### 学術賞制度

1993 年度までに「論文賞」、「奨励賞」、「論説賞」の3賞が設けられました。それぞれ規定において以下のように定められております。

「論文賞」 優れた研究業績によって計画行政学の発展に著しく寄与したものを対象とする。研究実績に基づき、その意義や貢献が多大であると判断できる研究業績を対象とするものとする。

「奨励賞」 原則として 40 歳未満の研究者で、計画行政に関する単数または複数の優れた研究論文を発表した個人または集団を対象とする。萌芽的な研究でよく、将来への発展の可能性を十分に有すると判断できる研究業績を対象とするものである。

「論説賞」 計画行政に関する哲学や理念、課題、提言、研究の一般理論または方向性などに関する優れた論説を発表したものを対象とする。学術的な緻密さで吟味された研究成果の基礎となる発想の豊かさやこれらの研究成果を新たな総合政策策定に活用する際の可能性と限界、ならびにこれらの研究成果の体系的な整理を踏まえての学術研究の新たな方向性などに関する知見を対象とするものとする。

#### 計画賞制度

1995 年度より計画賞が設置されました。この賞は現実の計画の中から優れたものを発掘し表彰するものです。

#### 功績賞制度

1999 年度に功績賞が新しく設置されました。功績賞は、計画行政学の発展と本学

会の運営に顕著な貢献をなしたと認められるものを表彰するものです。

( 5 ) 機関誌の発行

学会誌「計画行政」を年4回発行

( 6 ) 地方支部・専門部会活動

研究集会、講演会、シンポジウムなどを随時開催

( 7 ) ニュース・レタ - の発行

行事予定、事務連絡などを掲載

( 8 ) その他

会員名簿の作成、委託研究の実施、文献・資料整備、講師の斡旋、会員論文等の登録、内外学会との交流